

令和3年度 高齢者医薬品適正使用推進事業

ポリファーマシー事業最終報告

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院

担当者：
副薬剤部長 橋本浩伸

目次

1.	医療機関の概要	
1-1	国立がん研究センター中央病院（NCCH）の概要（病床数や来院数、医療従事者数など）	3
1-2	NCCHの診療科・薬剤部の構成	4
2.	業務実施方針	
2-1	NCCHにおけるポリファーマシー対策活動の現状（事業前）	7
2-2	業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項	8
3.	作業計画、作業スケジュール	
3-1	作業体制	9
3-2	作業スケジュール	10
4.	現在の進捗報告	11
5.	普及啓発活動	24
6.	現時点での業務手順書の有効性と課題について	30

1-1 国立がん研究センター中央病院の概要



■ 国立がん研究センター（NCC）

- 1962年2月 国立高度専門医療研究センターとして設立
- 2010年3月 独立行政法人化
- 2015年4月 国立研究開発法人（がん領域では唯一）
- 2015年8月 臨床研究中核病院
- 2018年2月 がんゲノム中核拠点病院

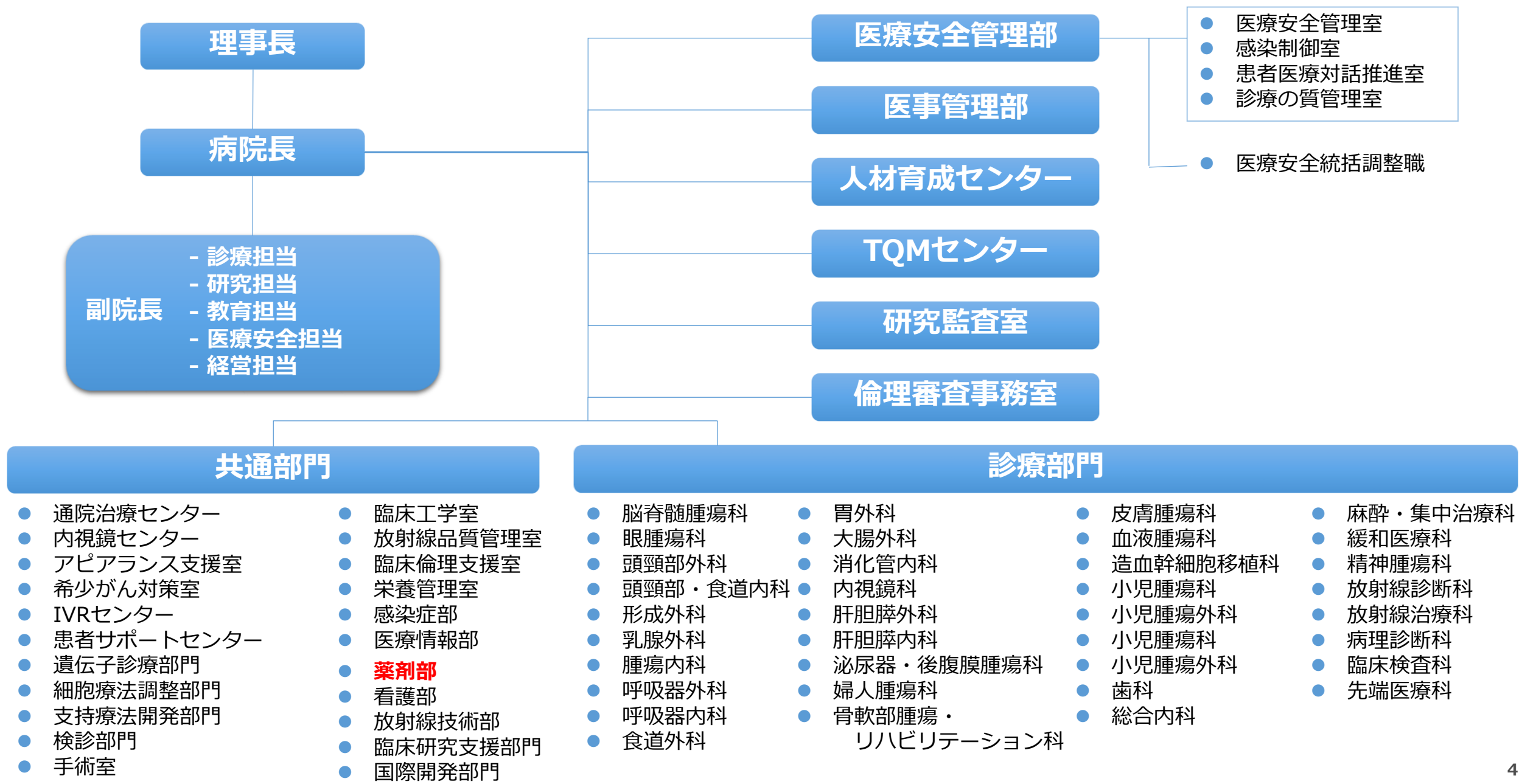
■ NCCの組織

- **中央病院（東京都中央区築地）**
- 東病院（千葉県柏市）
- 研究所
- 先端医療開発センター
- がんゲノム情報管理センター
- がん対策研究所
(2021年9月に「社会と健康研究センター」と「がん対策情報センター」が統合した新組織)

■ 中央病院（NCCH）

- 病床数578床
- 外来 1日約1,450人（通院治療センターにて1日約150人の化学療法を実施）
- 医師 250人 看護師 670人 薬剤師 69人（レジデント含む）
- 日本全国から訪れる様々ながん種の患者の治療及び臨床研究・治験を実施

1-1 国立がん研究センター中央病院の組織体制



1-2 国立がん研究センター中央病院 薬剤部の概要



薬剤部員 74名 (出向者 3名含: 厚生労働省、AMED、PMDA 等)

薬剤部長: 1名 副薬剤部長: 3名 研修専門職: 1名 治験事務室長: 1名 主任薬剤師: 10名

常勤薬剤師: 34名 (CRC 2名、産休・育休者 2名含) 非常勤薬剤師: 1名 派遣薬剤師: 2名

がん専門修練薬剤師: 0名 薬剤師レジデント: 18名

薬剤助手: 1名 SPD: 21名 臨床研究支援職員: 3名



資格取得者数

がん専門薬剤師: 13名 がん指導薬剤師: 7名 がん薬物療法認定薬剤師: 5名 外来がん治療認定薬剤師: 4名

緩和薬物療法認定薬剤師: 6名 抗菌化学療法認定薬剤師: 2名 感染制御認定薬剤師: 3名

糖尿病療養士: 1名 NST専門療養士: 4名



・処方箋 (内服・外用) 枚数 (/月)

入院: 約12,000枚
外来: 約9,500枚 (院内+院外)
院外処方箋発行率: 約90%

・周術期外来: 約500件/月

手術件数: 約420件/月

・レジメン登録数

約2000件 (一般診療+臨床試験)

・処方箋 (注射) 枚数 (/月)

入院: 約11,600枚
外来: 約4,260枚

・抗がん剤調製件数

入院: 65件/日
外来: 212件/日
(支持療法: 260件/日)
計280件/日 (約175人)

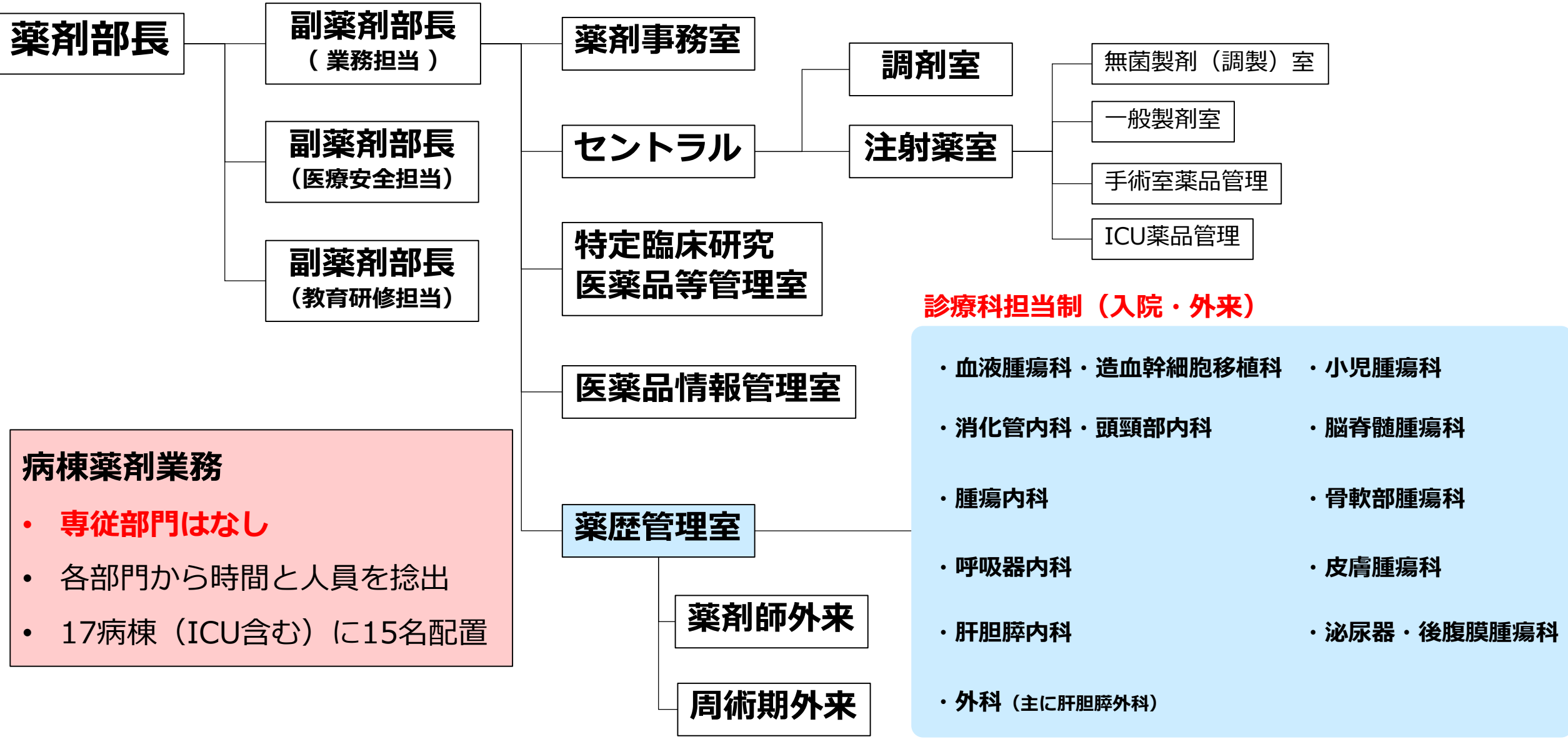
・薬剤管理指導件数 (/月)

算定件数: 約1400件 (ハイリスク1000件)
麻薬管理指導加算件数: 約250件
退院時薬剤情報管理指導料: 約360件
非算定件数: 約1000件
がん患者指導管理料: 約550件

・インシデント報告件数 (/年)

全報告件数: 5468件
薬剤部: 167件 (3.08%)

1-2 国立がん研究センター中央病院 薬剤部の構成



病棟薬剤業務

- ・ 専従部門はなし
- ・ 各部門から時間と人員を捻出
- ・ 17病棟 (ICU含む) に15名配置

- 診療科担当制 (入院・外来)**
- ・ 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
 - ・ 小児腫瘍科
 - ・ 消化管内科・頭頸部内科
 - ・ 脳脊髄腫瘍科
 - ・ 腫瘍内科
 - ・ 骨軟部腫瘍科
 - ・ 呼吸器内科
 - ・ 皮膚腫瘍科
 - ・ 肝胆膵内科
 - ・ 泌尿器・後腹膜腫瘍科
 - ・ 外科 (主に肝胆膵外科)

2-1 NCCHにおけるポリファーマシー対策活動の現状（事業前）

■ ポリファーマシー対策活動に関する実績なし

- ポリファーマシーに関連する診療報酬点数の算定取得なし
 - 薬剤総合評価調整加算（薬剤調整加算）
 - 退院時薬剤情報連携加算

■ 病棟薬剤業務担当者は、主に「入院時持参薬確認」を実施（薬学的介入は薬歴管理室配属者が実施）

- ポリファーマシーに関する問題点の抽出等は実施していない

■ 薬歴管理室配属者は、薬剤管理指導の一環として処方の見直しを実施

- 薬剤管理指導では、抗がん薬による副作用マネジメントが主
- 診療科単位で、ラウンドならびにカンファレンスに帯同（診療科ごとに密な連携体制を構築）

■ 診療科横断的な専門医療チーム：ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、周術期管理チーム、AYAサポートチーム、アピアランスケアチーム、リプロ支援チーム、摂食・嚥下チーム

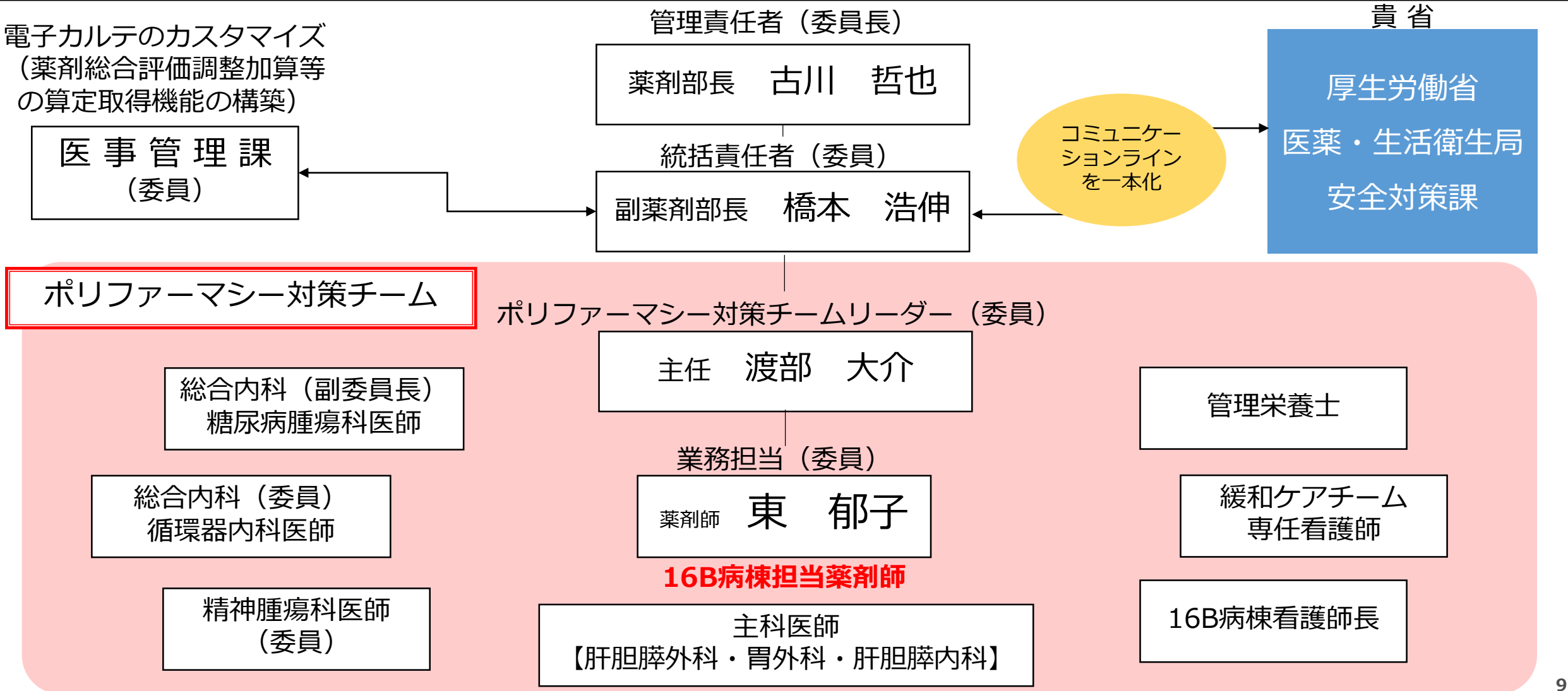
- **病院の組織内にポリファーマシー対策チームなし**

2-2 業務手順書における課題確認と課題に対する実施事項

業務手順書における課題	実施事項
第1章 1. ポリファーマシー対策を始める前に ポリファーマシー対策導入前の事前調査	<ul style="list-style-type: none"> ● ポリファーマシー対策に関する実績がある医療機関での施設見学 <u>(実施済)</u>
第1章 2. 身近なところから始める (1) 人員の捻出	<ul style="list-style-type: none"> ● 専任薬剤師の設定 <u>(実施済)</u> ● 他職種からは、ポリファーマシーに関心の高い職員を推薦してもらう <u>(実施済)</u> ● ポリファーマシー対策の実践経験がある職員に協力を依頼 <u>(実施済)</u>
(2) 小規模から始める	<ul style="list-style-type: none"> ● 小規模（モデル病棟・診療科）での実施を検討 <u>(実施済 2021/10～)</u>
(4) 既にある仕組みやツールを活用する	<ul style="list-style-type: none"> ● 医事課ならびに医療情報部との連携（電子カルテのカスタマイズ） <u>(実施済)</u> ● カンファレンス内容を共有するテンプレートの作成等 <u>(実施済)</u>
第1章 3. ポリファーマシー対策を始める際の課題と対応策 (1) 対象患者の抽出方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 病棟担当薬剤師が入院時持参薬確認を行う際に、スクリーニングする方法を採用 <u>(実施済)</u>
(2) 多職種連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 院内に「ポリファーマシー対策チーム」を新規に立ち上げる <u>(実施済)</u> ● ポリファーマシー対策の相談窓口が見える化する <u>(実施済)</u> ● チームカンファレンスの定期的な開催 <u>(実施済)</u>
(5) (主治医が) <u>自科以外</u> の処方薬を調整する際の対策	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合内科医ならびに精神腫瘍科医にチームの統括を依頼 <u>(実施済)</u> ● チームカンファレンスに主治医に参加を促す <u>(実施済 2021/10～)</u>
(6) 病態全体の適確な把握	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者総合機能評価（CGA）等による日常生活機能評価を取り入れる <u>(実施済)</u>
(7) 見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 院外薬局との連携強化に努める <u>(実施済)</u> (薬剤管理サマリーとトレーシングレポートによる連携構築)
(8) 患者から理解を得る方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者向けの説明用パンフレットの使用を検討する <u>(現在、取り組み中)</u> ● アドバンス・ケア・プランニング（ACP）や非薬物的対応の視点を取り入れる (調整中 → 対応保留)

3-1 作業体制図

- 指揮命令系統を一本化し明確化する。
- 貴省からの問い合わせ等に対応し、適切な業務を遂行するために、貴省とのコミュニケーションラインを一本化する。
- 肝胆膵外科病棟を対象病棟とし、ポリファーマシー対策チームメンバーで業務を遂行する。



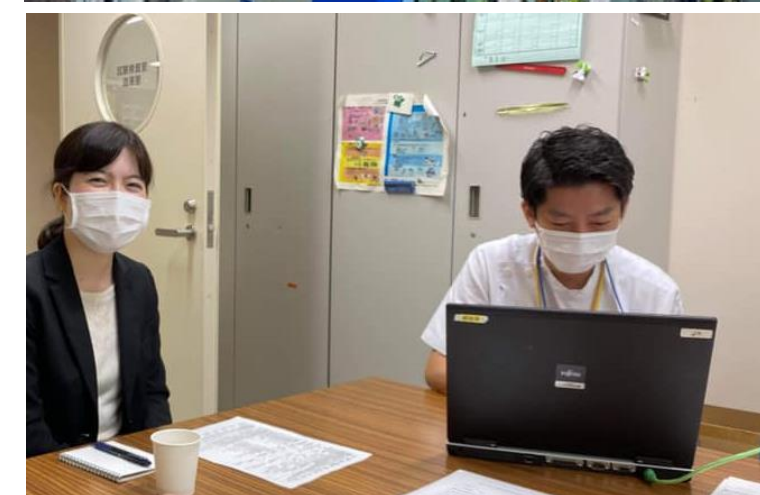
3-2 作業スケジュール

事業内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ポリファーマシー対策導入前の事前調査	→										
手順書等によるポリファーマシー対策の導入		→									
ポリファーマシー対策を始める際の課題と対応策についての課題確認		→									
ポリファーマシーカンファレンス等の実施				→							
事業実施前後のアウトカム評価		→									
報告会議の運営				8/11			11/4				4/13 予定
普及啓発活動							*1		*2	*3	*4
報告書作成											→

普及啓発：*1 院内QC活動報告 *2 医薬品情報誌1月号 *3 保険薬局向け研修会（オンライン）*4 学会報告 日本臨床腫瘍薬学会2022(3/12-13開催)

7月6日（火）国立長寿医療研究センター見学実施

- ポリファーマシー対策チームカンファレンスに同席
 - 専任薬剤師2名に加え、老年内科医師、循環器内科医師、代謝内分泌内科医師、看護師、管理栄養士、言語聴覚士が参加
- ポリファーマシー対策チームの編成ならびに病院組織内の位置づけについて
 - 高齢者薬物療法適正化委員会を設置
- ポリファーマシーに関連する診療報酬点数の算定取得について
 - 薬剤総合評価調整加算（薬剤調整加算）
 - 退院時薬剤情報連携加算
- 具体的なカルテ記載内容・電子カルテ搭載システム上の工夫等について



4. 現在の進捗報告

4-1 小規模から始める：ポリファーマシー活動を展開するモデル病棟の選定

今後の業務拡大を視野に、外科・内科の診療科混合病棟を選定

16B ナースステーション

■ モデル病棟の編成

- 病総数：42 床
 - 肝胆膵外科 23 床
 - 肝胆膵内科 16 床
 - 胃外科 3 床
- 看護師総数：28 名
(看護師長 1名 副師長 2名を含む)
- 病棟専任薬剤師：1名

4. 現在の進捗報告

4-2 モデル病棟(16B病棟)における事前調査 (調査期間：2021年7月1日～7月31日)

入院患者数(人)		91
診療科内訳(人)	肝胆膵内科	42
	肝胆膵外科	35
	胃外科	10
	その他	4
入院時常用薬数(剤)*		3 [0-12]
常用薬数内訳(人)	6剤未満	69
	6～9剤	18
	10剤以上	4

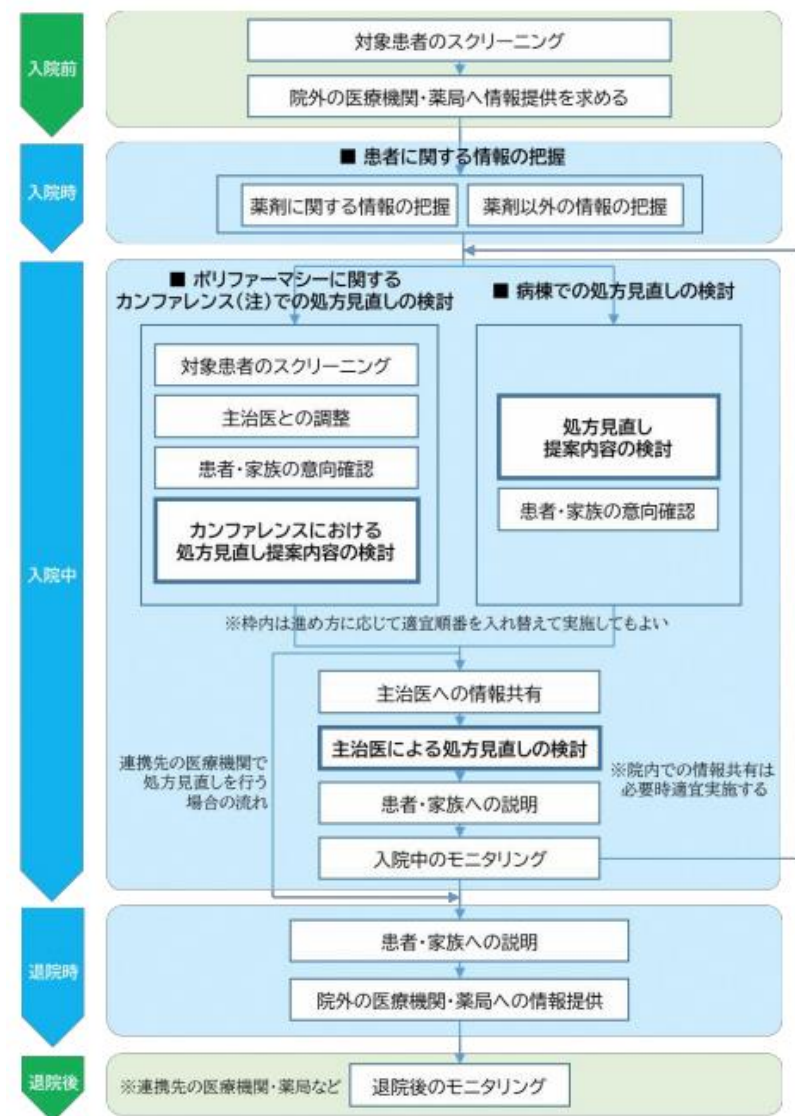
常用薬数6剤以上の患者の入院期間 (n=22)

入院期間(日)*		8 [3-27]
入院日数内訳(人)	10日未満	11
	10日以上	11

*：中央値 [範囲]

4. 現在の進捗報告

4-3 既存ツールへのポリファーマシー対策の取り入れ



■ ポリファーマシーに関連する診療報酬算定体制の整備

- 当院の医事管理室および医療情報部と連携し、診療録のカスタマイズを実施し搭載済み
- 薬剤総合評価調整加算・薬剤調整加算システム
- 退院時薬剤情報連携加算の算定システム
- ポリファーマシー対策カンファレンス用テンプレート

■ 患者に関する情報収集および情報提供体制の整備

- 入院時持参薬確認および退院時指導に用いるツールを作成

患者に関する情報の把握に用いるシート

持参薬に関する評価シート

持参薬鑑別評価シート

施設名： _____ 登録番号： _____

ID： _____ 名前： _____ 病棟： _____ 診療科： _____

副作用歴	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (_____) <input type="radio"/> その症状は、薬の副作用として今後も継続的にありますか？ (_____)
アレルギー歴	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (_____)
一般用医薬品・サブリエ	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (_____) <input type="radio"/> 薬酸サプリメントを服用していますか？ (妊婦限定)
お薬手帳の活用	<input type="radio"/> お薬手帳は使用されていますか？ <input type="radio"/> なし
薬剤管理方法	<input type="radio"/> お薬の管理方法 <input type="radio"/> 薬袋 (PTP) <input type="radio"/> お薬は誰が管理 <input type="radio"/> 自己管理 <input type="radio"/> 家族・支援 <input type="radio"/> お薬の管理で <input type="radio"/> 薬の飲み忘れ <input type="radio"/> 薬を取り出す <input type="radio"/> お薬の服用で <input type="radio"/> 特になし <input type="radio"/> その他 (_____)
処方意図	<input type="radio"/> ご自身で使用 <input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> 薬剤師チェック
薬局	<input type="radio"/> いつも同じ薬局 <input type="radio"/> もらっていない
入院目的	<input type="radio"/> 1週間以内
患者の希望	<input type="radio"/> 服用している <input type="radio"/> ようか？ (入院)
ポリファーマシー調査	<input type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> 定期的に使用 <input type="radio"/> いいえ
備考	<input type="radio"/> 処方医療機関 <input type="radio"/> _____ <input type="radio"/> _____

健康状態に関する患者アンケート

日々の体調に関するチェックシート

ID： _____ お名前： _____

○該当する□にチェック、下線部分に数字を記入してお答えください。

① 日中の眠気が継続してありますか？

いいえ はい

② 1日の睡眠時間を教えてください。

睡眠時間： _____ 時間
 中途覚醒（途中で目覚める）の回数： _____ 回

kg 以上

ユラする感じ

はい 症状の特徴： 尿が出にくい 尿の回数が多い

■ 下記の項目に関する情報収集を目的に、入院時に「評価シート」での問診および「患者アンケート」を実施

- 薬剤の内服状況
- 薬剤の管理状況
- かかりつけ医・薬局の有無
- 有害事象の出現発現、薬剤起因性老年症候群の有無 等

ポリファーマシーの評価と問題抽出に活用するツールを作成

患者に関する情報の把握に用いるシート（高齢者機能評価ツール）

G8（Geriatric 8）：高齢がん患者を対象に作成された高齢者総合的機能評価ツール

- 合計点数（0～17） カットオフ14以下と設定
- ADL（日常生活動作）、IADL（手段的日常生活動作）の低下に関する予後予測能に優れている
- G8スコア ≤14点 は、>14点と比較して有意に生存期間が短いことが報告されている

Kenis C, et al: J Clin Oncol 2014 ; 32(1) 19-26.

	質問項目	該当回答項目
A	過去3カ月間で食欲不振、消化器系の問題、そしゃく・嚥下困難などで食事量が減少しましたか	0：著しい食事量の減少 1：中等度の食事量の減少 2：食事量の減少なし
B	過去3カ月間で体重の減少はありましたか	0：3kg以上の減少 1：わからない 2：1～3kgの減少 3：体重減少なし
C	自力で歩けますか	0：寝たきりまたは車椅子を常時使用 1：ベッドや車椅子を離れられるが、歩いて外出できない 2：自由に歩いて外出できる
D	神経・精神的問題の有無	0：高度の認知症またはうつ状態 1：中程度の認知障害 2：精神的問題なし

	質問項目	該当回答項目
E	BMI値	0：19未満 1：19以上21未満 2：21以上23未満 3：23以上
H	1日に4種類以上の処方薬を飲んでますか	0：はい 1：いいえ
P	同年齢の人と比べて、自分の健康状態をどう思いますか	0：良くない 0.5：わからない 1：同じ 2：良い
	年齢	0：86歳以上 1：80歳～85歳 2：80歳未満

院外の医療機関・薬局への情報提供に用いる様式

薬 剤 管 理 サ マ リ ー		作成日
御中		
様の退院時処方・薬学的管理事項について連絡申し上げます。		
生年月日	歳	性別
入院期間	日間	担当医
身長	cm	体重
kg		
アレルギー歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
副作用歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
腎機能	SCr	mg/dL eGFR mL/min/1.73m ² 体表面積 (DuBois式) m ²
その他必要な検査情報		
入院前の服薬状況	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 時々忘れる <input type="checkbox"/> 忘れる <input type="checkbox"/> 拒薬あり <input type="checkbox"/> その他	
入院中の服薬管理	<input type="checkbox"/> 自己管理 <input type="checkbox"/> 1日配薬 <input type="checkbox"/> 1回配薬 <input type="checkbox"/> その他	
投与経路	<input type="checkbox"/> 経口 <input type="checkbox"/> 経管 (経鼻・胃瘻・食道瘻・腸瘻)	
調剤方法	<input type="checkbox"/> P T P <input type="checkbox"/> 一包化 <input type="checkbox"/> 簡易懸濁 <input type="checkbox"/> 粉砕 <input type="checkbox"/> その他	
退院後の薬剤管理方法	<input type="checkbox"/> 本人 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> その他 ()	
一般用医薬品・健康食品等	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ()	
入院時持参薬	◆入院時に変更された薬剤	
	◆当院退院時処方	◆継続持参薬
退院時処方	ご本人への薬價のお渡し <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
薬局への伝達事項	投与方法に注意を要する薬剤 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ()	
◆薬局薬剤師の先生方へ：トレーニングレポートで退院後の服薬状況について情報共有いただけます幸いです。		
※ご不明な点がございましたら、下記薬剤師までお問い合わせください。		
国立がん研究センター中央病院	〒104-0045	薬剤師
東京都中央区築地5-1-1 TEL:03-3542-2511(代表) FAX:03-3248-		

■ 退院時服薬指導の実施対策（処方見直し後）

- 薬剤情報提供書の作成し、患者指導を実施
- お薬手帳シールの作成・貼付
- 処方医療機関・かかりつけ薬局向けに
薬剤管理サマリーを作成

処方見直し後の情報提供および

退院後のモニタリングにつなげるツールを作成

4. 現在の進捗報告

4-4 病院の位置づけ・人員体制を明確化する

■ ポリファーマシー対策小委員会を設置

- 中央病院 薬事委員会の下部組織として設置
- 医師6名、看護部2名、薬剤部4名、栄養管理室1名、医事課1名の14名で構成

■ 小委員会の実働部隊として、**ポリファーマシー対策チーム**を設置

- チームメンバーは、総合内科（糖尿病腫瘍科、循環器内科）医師、精神腫瘍科医師、外科系診療科医師、内科系診療科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師
- カンファレンスは、原則として週1回の定例会（毎週 木曜日 16:00開催）
- 将来構想として診療科横断的なチームとするが、**今年度はモデル病棟で活動を開始する**

4. 現在の進捗報告

4-4 病院の位置づけ・人員体制を明確化する

令和3年8月×日細則第××号

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 薬事委員会 ポリファーマシー対策小委員会運営細則

(目的)

第1条 この規程は、国立がん研究センター中央病院の病棟あるいは外来において、ポリファーマシー*に関連する薬物関連問題を適正化し、薬物療法が安全に施行できるようにすることを目的とする。

*ポリファーマシーは、6剤以上など一律の薬剤数で対応する患者を規定するのではなく、厚生労働省 高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）に準じ、「薬物有害事象、服薬アドヒアランス不良、不要処方、あるいは必要な薬が処方されない、過量・重複投与など薬剤のあらゆる不適正問題を含む概念」とする。

(ポリファーマシー対策小委員会の設置)

第2条 前条に定める目的を達成するため、中央病院 薬事委員会の下部組織として、ポリファーマシー対策小委員会（以下「小委員会」という。）を設置する。

- (1) 小委員会の委員長は、薬事委員会委員長の指名する者とする。
- (2) 小委員会は医師6名、看護部2名、薬剤部4名、栄養管理室1名、医事課1名の14名で構成し、委員は委員長が指名した者とする。委員の任期は1年とするが再任は妨げない。
- (3) 委員長は会務を統括し、会議を主催する。
- (4) 審議内容により委員長が指名する者を参加させることができる。
- (5) 小委員会の所掌事務は、以下のとおりとする。
 - 一 ポリファーマシー対策のための調査・研究に関すること。
 - 二 ポリファーマシー対策にかかる以下の必要事項に関すること。
 - ① 服薬状況調査に関する事項
 - ② 薬物有害事象の発生状況の調査
 - ③ その他ポリファーマシー対策等に関すること。
- (6) 小委員会は年1回開催することとし、委員長が招集する。ただし、委員長が必要と認める場合は、臨時に開催することができる。
- (7) 委員会は委員の過半数の参加をもって成立する。
- (8) 委員会の庶務は薬剤部が行うものとし、委員会で審議された事項について記録し、保管する。議事録の保管期間は3年とする。

(ポリファーマシー対策チームの設置)

第3条 小委員会で決定された方針に基づき、組織横断的にポリファーマシー対策を行う組織として、院内にポリファーマシー対策チームを設置する。

- (1) チームのチームリーダーは小委員会の委員長の指名する者とする。
- (2) チームメンバーは、総合内科（糖尿病腫瘍科、循環器内科）、精神腫瘍科、外科系診療科、内科系診療科、看護部、薬剤部、栄養管理室の中から委員長が指名した者が構成する。
- (3) ポリファーマシー対策チームカンファレンスは、原則として週1回の定例会とする。ただし、必要に応じ、臨時ポリファーマシー対策チームカンファレンスを開催することができる。
- (4) ポリファーマシー対策チームの所掌事務は以下のとおりとする。
 - 一 病院のポリファーマシーに関する情報収集。
 - 二 ポリファーマシー対策等の対策立案と実施の推進に関すること。
 - 三 ポリファーマシー対策のための患者及び職員への啓発と教育の推進に関すること。
 - 四 ポリファーマシー症例に対する対応の提言等に関すること。
 - 五 その他、チームリーダーが必要と認める事項に関すること。
 - 六 その他、小委員会が必要と認める事項に関すること。
- (5) ポリファーマシー対策チームカンファレンスの開催連絡、記録及びその他の庶務は、薬剤部が行う。

附 則 この規程は、令和3年8月×日から施行する。

4. 現在の進捗報告

4-5 ポリファーマシー対策チームカンファレンスの開催

ポリファーマシー対策チーム

ポリファーマシー対策チームリーダー（委員）

主任 渡部 大介

総合内科（副委員長）
糖尿病腫瘍科医師

総合内科（委員）
循環器内科医師

精神腫瘍科医師
（委員）

業務担当（委員）

薬剤師 東 郁子

16B病棟担当薬剤師

主科医師
【肝胆膵外科・胃外科・肝胆膵内科】

管理栄養士

緩和ケアチーム
専任看護師

16B病棟看護師長



- 2021年10月7日より、本格始動
- 毎週 木曜日 16:00開催 16B病棟カンファレンスルームにて
- 薬剤師がチームリーダーとなり、主体となってポリファーマシー業務の調整を行う
- 対象患者の情報共有、処方見直しの検討と提案、モニタリング項目の共有、経過フォローを行う

4. 現在の進捗報告

4-6 ポリファーマシー対策業務の成果

調査期間：2021年10月1日～2022年2月28日

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
カンファレンス開催回数(回)	3	4	4	3	4		18
検討患者数(延べ、人)	17	27	39	25	39		147
診療報酬算定件数							
処方見直し実施件数(件) [†] [†] 薬剤総合評価調整加算取得件数	10	14	12	12	10		58
2剤以上の減薬実施件数(件) [‡] [‡] 薬剤調整加算取得件数	2	3	5	4	3		17

ポリファーマシー対策チームカンファレンスの成果

カンファレンス検討症例

Aさん、70歳代、男性

入院目的：胆嚢癌疑い 遠位胆管狭窄

G8スコア：12点

チェックシートでの特記事項：なし

併存疾患：胃GIST部分切除、右頸部内頸動脈狭窄、急性硬膜下血腫

入院時持参薬（他院からの処方）

1. Iゾラム錠0.5mg 1回1錠 1日3回毎食後
2. シロスタゾール錠50mg 1回1錠 1日2回朝夕食後
3. アピキサバン錠5mg 1回1錠 1日2回朝夕食後
4. ホノロザンカル酸塩錠20mg 1回1錠 1日1回朝食後
5. アムロジピン錠5mg 1回1錠 1日2回朝夕食後
6. アジリルタン錠20mg 1回1錠 1日2回朝夕食後
7. メコバラミン錠500mcg 1回1錠 1日2回朝夕食後
8. ベプリジル塩酸塩錠50mg 1回1個 1日2回朝夕食後

入院後の経過

2021/01/10 入院

2021/01/11 内視鏡的逆行性胆管膵管造影、ステント留置

2021/01/20 退院

カンファレンスでの検討内容

- ✓ 入院時、アムロジピン以外の薬剤を自己中断しており、**アドヒアランス不良**。
 - ✓ アピキサバンとシロスタゾールは内頸動脈狭窄に対して処方されていたが、**抗血栓薬の2剤併用は出血リスクが懸念**された。心房細動を有している可能性を考慮し、アピキサバンを継続しシロスタゾールは中止。
 - ✓ メコバラミンは内頸動脈狭窄に対して処方されていたが、継続の意義が薄いと考えられるため中止。
 - ✓ **ベプリジルはQT延長等のリスクを考慮**し、直近の心電図より難治性の不整脈ではないことを評価して中止。
- シロスタゾール、メコバラミン、ベプリジルの3剤を中止
- その他の処方薬は入院中に内服を再開し、服薬を継続するよう指導実施

薬剤管理サマリー(一部抜粋)

基本情報			該当薬剤		発現時期		発現時の状況等 (検査値動向含む)			
	アレルギー歴	<input checked="" type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり							
	副作用歴	<input checked="" type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり							
	腎機能	Scr	0.64	mg/dL	eGFR	92	ml/min/1.73m ²	体表面積 (DuBois式)	1.999	m ²
	その他必要な検査情報	T-Bil : 0.9mg/dL AST : 31U/L ALT : 52U/L								
	入院前の服薬状況	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 時々忘れる	<input type="checkbox"/> 忘れる	<input type="checkbox"/> 拒薬あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他				
	入院中の服薬管理	<input checked="" type="checkbox"/> 自己管理	<input type="checkbox"/> 1日配薬	<input type="checkbox"/> 1回配薬	<input type="checkbox"/> その他					
	投与経路	<input checked="" type="checkbox"/> 経口	<input type="checkbox"/> 経管 (経鼻・胃瘻・食道瘻・腸瘻)							
	調剤方法	<input checked="" type="checkbox"/> P T P	<input type="checkbox"/> 一包化	<input type="checkbox"/> 簡易懸濁	<input type="checkbox"/> 粉砕	<input type="checkbox"/> その他				
退院後の薬剤管理方法	<input checked="" type="checkbox"/> 本人	<input type="checkbox"/> 家族	<input type="checkbox"/> その他 ()							
一般用医薬品・健康食品等	<input checked="" type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> あり	()							
医療機関への伝達事項	投与方法に注意を要する薬剤	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり	()						
	<p>入院時自己判断で服薬を調整されており、定時内服薬は7割のみとコンプライアンス不良でした。 当院の他職種カンファレンスにおいて継続が必要な薬剤を検討し、アレターム、ベアプリール、メジバルを中止いたしました。 抗血栓薬はリキーズとアレタームを処方されており、出血リスクと心房細動の可能性を考慮しリキーズのみ再開としております。また、ベアプリールは難治性の不整脈ではないご様子であり、再開時のQT延長等のリスクを考慮し中止としております。 その他の持参薬は服薬継続するよう指導いたしました。 患者様受診時に服薬コンプライアンスおよび継続薬の評価をいただきますと幸いです。</p>									

5. 普及啓発活動①

QC活動 院内掲示ポスター

がんセンターでもポリファーマシー対策を始めました

中央病院薬剤部 チーム「おくり減らし隊」

QC活動における成果・実績

1. ポリファーマシー対策チームの体制の紹介

職種	氏名	所属
医師	大橋 健	総合内科長 (糖尿病診療科)
	松崎 弘通	精神科部長
	庄司 正明	総合内科医長 (糖尿病内科)
	宮城 隆史	総合内科医長 (糖尿病内科)
	水戸 浩志	肝臓外科 医員
	丸木 尚仁	腎臓内科 医員
	野村 真	腎臓科 ガン専門診療医
看護師	鎌倉 有加	16B病棟看護師
	近藤 麗子	緩和ケア専任看護師
管理栄養士	関 依和子	主任栄養士
薬剤師	橋本 浩伸	薬剤科部長
	渡部 大介	一般薬主任
	栗 柳子	16B病棟担当薬剤師

2. ポリファーマシー対策チームの活動実績 (10月・11月)

カンファレンス開催スケジュール
 毎月 本曜日 16:00開始
 16B病棟アフレックスルームにて
 開催回数: 7回
 対象患者数: 延べ 42名
 診療報酬算定状況
 ● 薬剤総評価調整加算 24件
 ● 薬剤調整加算 5件

2. ポリファーマシーに関するアンケート調査結果

総勢 350名 からご回答をいただきました。ご協力いただき、ありがとうございます。

Q ポリファーマシーという言葉を知っていますか?

医師 37名	81.1%
看護師 111名	16.2%
薬剤師 45名	18.6%
157名	29.9%
51.0%	20.4%
28.7%	

Q ポリファーマシー業務に対して診療報酬が算定できることを知っていますか?

医師 37名	56.8%
看護師 111名	43.2%
薬剤師 45名	63.5%
157名	36.5%
86.6%	13.4%

Q 当院でポリファーマシー対策チームが発足したことを知っていますか?

医師 37名	32.4%
看護師 111名	67.6%
薬剤師 45名	38.5%
157名	61.5%
48.4%	51.6%

Q 処方時は他院からの処方を含めて必要性を検討していますか?

医師 37名	15.9%
看護師 111名	32.4%
薬剤師 45名	32.2%
157名	48.6%
43.2%	

Q 薬剤を整理する際に悩んだことはありますか?

よくある	48.6%
たまにある	43.2%
ほとんどない	
悩まない	

【おおよそどの程度ですか?】

- 専門知識の差が大きい(88.2%)
- 処方内容が不明瞭(79.4%)
- 専門知識の差が大きい(79.4%)
- 薬剤変更のフローが不明(52.9%)

Q 担当患者の服用薬剤数を意識していますか?

医師 37名	41.7%
看護師 111名	48.1%
薬剤師 45名	41.7%
55.8%	

まとめと今後の展望

院内に「ポリファーマシー対策チーム」を新規に立ち上げ、チームカンファレンスを定期的に開催できるようになり、診療報酬算定可能な業務体制を実現し、アンケート調査により、現場の職員がポリファーマシーに関して実際に困っていることを把握できたことから、対策に繋ぐモチベーションの向上につながった。

今年度は、モデル病棟(16B病棟)にて活動を開始しているが、将来構想としてはチームの介入を要する全患者に活動を展開できるように、体制構築をめざしたい。

■ 当院におけるQC活動

患者満足度の向上及び職員のモチベーション向上を目的に、医療サービス・医療安全、経営改善、研究・情報発信、職場環境の改善といったテーマに各職員(チーム)が取り組みを実施

➤ ポリファーマシー対策について啓発目的に参加

➤ ポリファーマシー対策チームの結成を周知

➤ アンケート調査を実施し、職員の意識調査や潜在的なポリファーマシー対策の必要性を検討し、ポスターにて発表

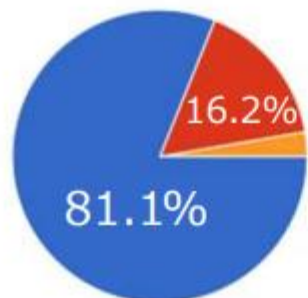
➤ アンケート調査期間：2021年11月1日～11月19日

ポリファーマシーに関するアンケート調査結果 (n=350)

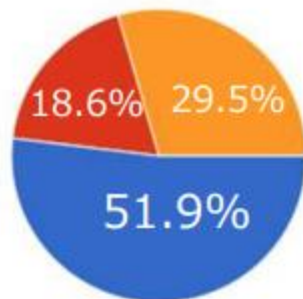
Q ポリファーマシーという言葉聞いたことがありますか？

- 聞いたことがあり、意味を知っている
- 聞いたことがあるが、意味は知らない
- 聞いたことがない

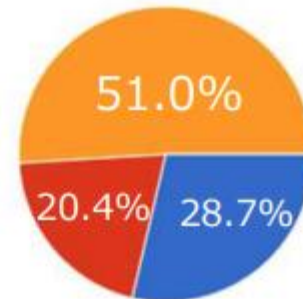
医師
37名



看護師 薬剤師
111名 45名

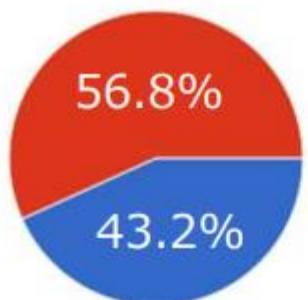


157名

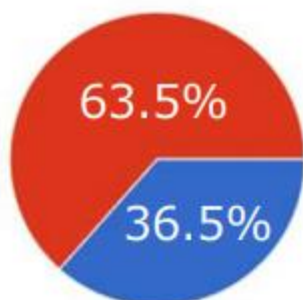


Q ポリファーマシー業務に対して診療報酬が算定できることを知っていますか？

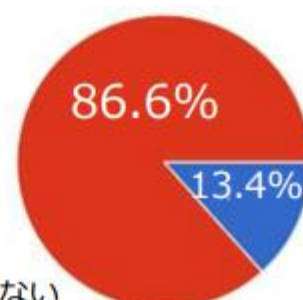
医師
37名



看護師 薬剤師
111名 45名



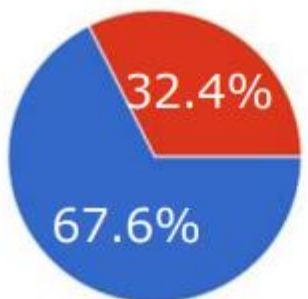
157名



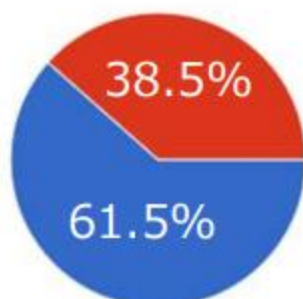
- 知っている
- 知らない

Q 当院でポリファーマシー対策チームが発足したことを知っていますか？

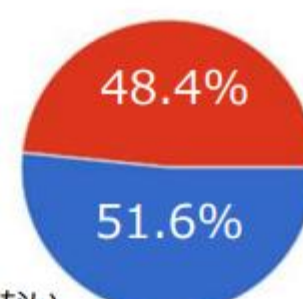
医師
37名



看護師 薬剤師
111名 45名



157名



- 知っている
- 知らない

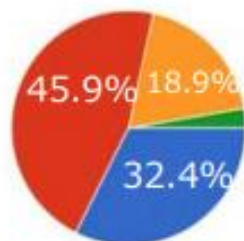
ポリファーマシーに関するアンケート調査結果 (n=350)



37名

への質問

Q 処方時は他院からの処方を含めて
必要性を検討していますか？

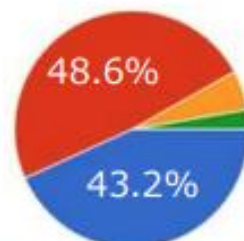


- 毎回検討している
- ほとんど検討している
- たまに検討している
- 検討していない

【検討する際はどのような点に注意していますか？】

- ・ 同効薬の重複がないか (86.1%)
- ・ 処方目的が不明だが漫然と継続されている薬剤がないか(86.1%)
- ・ 病態に適していない薬剤がないか(75.0%)
- ・ 薬物間相互作用がないか(55.6%)

Q 薬剤を整理する際に悩んだことは
ありますか？



- よくある
- たまにある
- ほとんどない
- 該当する場面がない

【どのような点で悩みますか？】

- ・ 専門領域外の薬剤の調整方法がわからない (88.2%)
- ・ 他院から処方されている薬剤は変更しづらい (79.4%)
- ・ 専門領域外の病態の評価が難しい (79.4%)
- ・ 薬剤変更後のフォロー・評価ができない (52.9%)

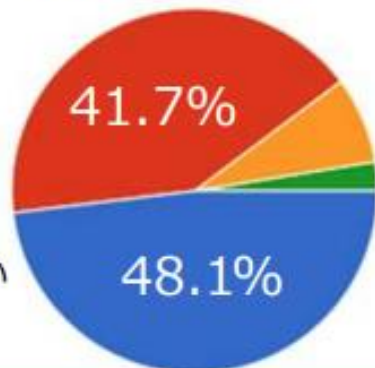


看護師 薬剤師
111名 45名

への質問

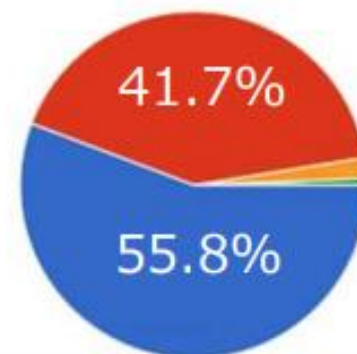
Q 担当患者の服用薬剤数を
意識していますか？

- 意識している
- たまに意識している
- ほとんど意識していない
- 意識していない



Q 薬剤数が多いことが担当患者の
負担になっていると感じたことは
ありますか？

- よくある
- たまにある
- ほとんどない
- まったくない



5. 普及啓発活動②

医薬品情報誌2022年1月号



項目

1. 薬事委員会報告(2022年度1月分薬事委員会承認分)	P.2
2. 添付文書改訂情報	P.6
3. 医薬品・医療機器安全性情報	P.27
4. ポリファーマシー対策	P.28

〈薬剤部ホームページへのアクセス方法〉

診療系 (Mission 端末)、新研究系いずれのネットワークからも閲覧可能です。

PMDA など外部リンクを利用する際には新研究系ネットワークをご利用ください。

築地キャンパス内部向けサーバーにアクセスしてください。

「医療部門」→「薬剤部 HP」を選択、またはアドレスバーに次の URL を入力してください。

URL: <http://int.res.ncc.go.jp/web/yakuzai/index.html>

■ 薬剤部から発信される情報(医薬品情報誌)

QC活動の結果を基に、ポリファーマシーの啓発目的に全職員に配信

1. ポリファーマシーとは？
2. ポリファーマシーに関連する問題の具体例
 - ✓ 特に慎重な投与を要する薬物 (PIMs) リスト
3. ポリファーマシー解消への取り組みに関する診療報酬
4. 当院におけるポリファーマシー対策 (ポリファーマシー対策チームの結成)
5. 参考文献、ガイドラインの紹介

5. 普及啓発活動③

薬局向け勉強会ポスター

第4回 薬薬連携を充実させるための研修会

～TULIP PROJECT～

(Tsukiji Unit LInk Pharmacists PROJECT)

日時 令和4年2月21日（月）19時開始

オープニング 開会あいさつ
薬剤部 橋本 浩伸

講演① ポリファーマシー対策チームについて
薬剤部 渡部 大介

講演② よくある疑義照会にお答えします
腫瘍内科 松岡 弘道 先生

情報提供 当院から提供される情報の紹介
薬剤部 渡部 大介

クロージング 閉会あいさつ
薬剤部長 古川 哲也

対象 薬局薬剤師の先生方

会費 無料

場所 WEB形式（ZOOM）



お問い合わせ：
国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 薬剤部
TEL: (03)-3547-5201 e-mail: hhashimo@ncc.go.jp
担当（薬剤部副部長 橋本 浩伸）

主催：国立がん研究センター中央病院 薬剤部

■ 『TULIP（チューリップ）』プロジェクト

- Tsukiji Unit LInk Pharmacistsの頭文字
- **全国の保険薬局と連携**し患者個々のライフスタイルに合わせた薬物療法の提供を目的に開催
- テーマ：

薬薬連携で取り組むべき課題「ポリファーマシー」

～ 当院のポリファーマシー対策チーム活動について ～

- 令和4年2月21日（月）19時 オンライン開催
- 参加者： 約300名

5. 普及啓発活動④



日本臨床腫瘍薬学会学術大会

JASPO 2022[★]

国立がん研究センター中央病院におけるポリファーマシーへの取り組みについて

◎東 郁子¹⁾、渡部 大介¹⁾、石川 光信¹⁾、赤木 徹¹⁾、橋本 浩伸¹⁾、古川 哲也¹⁾

¹⁾国立がん研究センター中央病院 薬剤部

- 会期：2022年3月12日（土）・3月13日（日）
- 会場：仙台国際センター
- 開催形式：現地開催＋ライブ配信／オンデマンド配信

- 一般演題口頭発表（発表7分、質疑応答3分）にて採択
- 2022年3月13日（日）9:30～11:00

当院で展開しているポリファーマシー対策の取り組み・活動実績を報告し、ポリファーマシー対策の実践における手順書の有用性について発表

背景：ポリファーマシー対策の推進

病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方

第1章 ポリファーマシー対策の目的	1
1. ポリファーマシー対策の目的	1
(1) 高齢者の健康を維持する	1
(2) 病状の悪化を防ぐ	1
(3) 薬剤の適正使用を促す	1
2. 高齢者にとっての課題	2
(1) 認知機能の低下	2
(2) 身体的な弱体化	2
(3) 薬剤の適正使用が困難である	2
(4) 薬の副作用の発生	2
3. ポリファーマシー対策の推進の目的	3
(1) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
(2) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
(3) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
(4) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
(5) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
(6) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
(7) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
(8) 「高齢者で、多剤併用が原因、有害な副作用の発生」	3
第2章 ポリファーマシー対策の進め方	10
1. ポリファーマシー対策の進め方	10
(1) ポリファーマシー対策の進め方	10
(2) ポリファーマシー対策の進め方	10
(3) 薬剤の適正使用	10
(4) 薬剤の適正使用	10
(5) 薬剤の適正使用	10
(6) 薬剤の適正使用	10
(7) ポリファーマシー対策の進め方	10
(8) ポリファーマシー対策の進め方	10
2. 薬剤の適正使用	10
(1) 薬剤の適正使用	10
(2) 薬剤の適正使用	10
(3) 薬剤の適正使用	10
(4) 薬剤の適正使用	10
3. 薬剤の適正使用	10
(1) 薬剤の適正使用	10
(2) 薬剤の適正使用	10
(3) 薬剤の適正使用	10
(4) 薬剤の適正使用	10

- ✓ 厚生労働省の高齢者医薬品適正使用検討会より、病院においてポリファーマシー対策を推進するための指針が策定された
- ✓ 指針の目的：
 - ①ポリファーマシー対策を始める際の課題解決
 - ②ポリファーマシー対策を進める際の業務手順の整備および効率化
- ✓ ポリファーマシー対策業務を推進するうえでの想定される課題とその解決策が示されている
- ✓ 様式事例集としてポリファーマシー対策業務に取り組まれている病院での事例が紹介されている

6. 現時点での業務手順書の有効性と課題について

有効性

- ポリファーマシー業務を開始するにあたり、作業工程の手順がわかりやすく記載されている。
→ チームを立ち上げまでの工程を円滑に行うことができた。
- 様式事例集に具体例が示されており、運営要領や薬剤管理サマリーのひな型作成の際に非常に参考になった。→ 作成にかかる労力・時間の短縮につながった。
- ポリファーマシー業務を運用することで、実際に処方の見直しにつなげることができた。
結果的に、ポリファーマシーに関連する診療報酬の算定取得にもつながった。

課題

- ポリファーマシー関連の患者向け資材は学会HP等で自由に入手できるが、医療関係者向けのものがない。院内に周知する際に、自院の担当者が独自で資材を作成する必要があり負担となる。
→ 手順書内に、ポリファーマシーの啓発活動を行う際に活用できる医療スタッフ向けの資材を紹介いただけると、活動の一助になるのではないかな。
- 薬剤師主導でチームを立ち上げる際は、当院の医師と地域の医師との連携体制の構築が難しい。
- 患者が様々な地域から来院されている場合、かかりつけ医やかかりつけ薬局も多様であり、地域連携の実現が難しい。
→ 病院の特徴ごとに地域連携の在り方は多様であることから、手順書に、病院機能・特徴を踏まえた地域連携の具体例・モデルケースを盛り込んでいただけると、施策を立てる上で参考になるのではないかな。